

須恵

須恵町
議会だより

平成20年2月5日発行

163号

もっと
上がれ〜!!

12月定例会 主な内容

- 6町合併協 4町可決 2町否決! 2
- ここが聞きたい(一般質問) 4
- 委員会レポート 8
- ごめんなざっしえ〜!(須恵東中学校 太鼓部) 12

表紙/ファミリーカイトフェスタ(若杉の森運動公園多目的広場)

ごめんなざっしえ〜!

第3回



須恵東中学校「太鼓部」

須恵町の各種団体、サークルなどを訪問します。今回は、須恵東中学校太鼓部に「ごめんなざっしえ〜」。(ご免ください)

須恵東中学校太鼓部はどのような活動を行っていますか。
太鼓の基礎と演奏を学んでいます。

部員数および指導者は
部員は一年男子二名、一年女子三名、二年男子一名、二年女子三名です。

指導者は、学校外部より菩提陽子先生に来ていただき指導をしてもらっています。
また、村嶋由利子先生、谷川紀子先生に顧問をしていただいています。

練習日や大会等予定は

練習日は毎週放課後、月曜日から金曜日までと土曜日です。
現在は、三月一日(土)に開催される「春一番太鼓まつり」での演奏を目指して練習に取り組んでいます。



叩き方を習う「広報特別委員会委員」

活動実績は
平成十八年八月に、東京国際和太鼓コンテストに出場することができ、翌十九年にも同じく東京国際和太鼓コンテストに出場し、審査員特別賞を受賞しました。
その他にも、つつじまつりや須恵第二小学校のべったんフェア、また須恵区・乙植木区・あゆ

みのもり須恵のお祭り等にも参加しています。
今後の抱負や目指していることは
今年も、東京国際和太鼓コンテスト出場を目指しています。
いろいろな発表の場として、地域の祭り等と呼んでいただけはいいなと思っています。

編集後記

「どげんかせんといかん」この言葉は二〇〇七年流行語大賞となった、東国原宮崎県知事の言葉である。
宮崎県ブランド等の販売や宣伝に忙しい毎日を送っている。
そのことで地方が活気づき宮崎県が輝いている。観光資源も復活したようだ。

だが、残念ながら六町での枠組みは暗礁に乗り上げてしまった。
少子高齢化問題・価値観の多様化等々により、多大な財政不足が生じてくること予想される。
二十年、三十年先の子どもや孫の時代に、「ここにおってよかった」と言われるまちづくりをするために、新たな道を模索して「どげんかせんといかん」

森 勝己

町議会の活動の状況を知るために、どなたでも傍聴できます。
申込みの受付は、役場4階議会事務局で行っています。
なお、次の定例議会は、3月5日からの予定です。

広報特別委員会

議長	藤石 豊
委員長	御手洗寿乃
副委員長	合屋 伸好
委員	森 勝己
委員	今村 桂子

12月定例会

平成19年第4回定例会は、12月14日から12月21日までの8日間で、提案された議案13件については、原案のとおり可決・承認されました。また、請願2件は採択されました。

糟屋6町合併協議

4町可決! 2町否決!



開会を宣言する藤石議長

これまでの経緯

地方財政を取り巻く環境はますます厳しさを増す状況が続く中、単独での財政運営が困難と思われる宇美町・志免町・須恵町（南部三町）で、自主的な市町村の合併を推進するために、特例制度や財政支援等の優遇措置が定められた市町村の合併の特例に関する法律（平成十七年三月三十一日までに施行された市町村の合併について適用）に向け、平成十五年七月に「合併問題任意協議会」が設置されました。

しかし、合併に向けて任意協議会より法定協議会へ移行するか、しないのか、合併特例法の期限が迫る中、平成十六年三月に「枠組みを広くとりもつと時間をかけて議論を尽くしたい」ということにより法定協議会設置議案の提出について見送ることとなり、南部三町

でも法定協議会設置議案が否決されれば六町合併そのものが破たんするために慎重に進めたいという

糟屋6町合併法定協議会設置議案の採決結果

町名	賛成	反対	結果
宇美町	13	2	○
粕屋町	8	8	× 議長裁決による
篠栗町	6	5	○
志免町	8	7	○
須恵町	13	0	○
久山町	3	8	×

合併暗礁に
今回六町ともそろって十二月議会に法定協議会設置議案が上程され、六町が十二月二十一日の同

この間、法定協議会設置議案の提出に躊躇された町におかれては、住民に対する「合併に関する講演会」が開催され、住民等に対し合併問題に理解を深めていただく手立

う意向があり、九月議会では合併協議会設置を求める議案提出を見送り、十二月議会に先延ばししました。その後、合併を協議する場としては「糟屋六町合併研究会」から「糟屋六町合併協議会設立準備会」と発展的に名称を変更し、都合六回の協議を重ねてまいり、いよいよ十二月議会において「糟屋六町合併協議会」の設置議案を提出する運びとなりました。

須恵町（人口約二万六千人）は賛成十三で満場

須恵町 全員賛成
粕屋町（人口約四万人）は賛成八反対八の可否同数となり、議長裁決により否決、久山町（人口約八千人）も賛成三反対八で否決しました。

日に、法定協議会設置議案の議決を求めるという段取りが取られました。結果、宇美・志免・篠栗・須恵の四町で可決されましたが、粕屋・久山の二町では否決されました。法定協議会設置にはすべての町議会の可決が必要で、「県内第四の都市」「十八万都市」誕生へ向けた六町合併の動きは暗礁に乗り上げました。

取り組んでいきます。

今後の行方
県合併支援室長は「今後も六町合併が進むように各町、議会・住民に情報提供していきたい。過去にも法定協議会設置案が否決された後に再提案して可決した例がある」と話されていました。

一致。宇美町（人口約三万八千人）は賛成十三反対二でした。同合併構想には同郡内の新宮町は加わっていません。六町合併が実現すれば人口約十八万人、福岡・北九州・久留米に次ぎ県内四番目の人口を持つ新市が誕生する見通しでした。



合併問題任意協議会は解散しました。

合併特例法（新法）「五年間（平成十七年四月一日〜平成二十二年三月三十一日まで）時限立法」の五年間という限られた時間の中で対応が求められる中、平成十八年四月に県の市町村合併構想により合併することが望ましい地域に指定され、推進してほしい旨の申出があり、平成十九年一月に糟屋六町合併研究会事務局を発足させたという経緯があります。

糟屋6町 合併協議

糟屋六町の合併問題については、本来ならば九月議会に法定協議会の設置議案を上程し、法定協議会を平成十九年十月に発足させるという予定でした。しかし、一部の町では住民や議会への説明がまだ不十分であり一つの町



答弁中の中嶋町長

ここが聞きたい!!

一般質問



柴田 真人 議員

町道の拡大

大型開発と併せて

■問 乙植木～平原線は、今まで二期にわたり工事をなされました。しかし、残りの高速までの間が狭く、最近では車も多くなり対向車が来ると待たなければならぬ状態です。なんとか拡大を。

■答 中嶋町長
第一期工事を平成十年、第二期工事を平成十四年度に行っており、第三期工事は費用等の問題により断ち切れ状態になっています。

■問 乙植木～平原線は、今まで二期にわたり工事をなされました。しかし、残りの高速までの間が狭く、最近では車も多くなり対向車が来ると待たなければならぬ状態です。なんとか拡大を。



二期工事で断ち切れになっている乙植木～平原線

しかし、平成十八年に当地区の大型開発がテールに上がりそうになり、その時点で道路改良しようという運びになりましたが、開発が白紙に戻り、話も断ち切れになったという経緯があります。

第三期工事を行おうと設計を始めた時は、工事長一八〇メートルで当時の価格で約八千万円かかるということであつたため、これを何とか単独事業ではなく補助事業に乗せたいと、担当課も相当努力を行いました。補助事業としては該当しませんでした。

十八年の開発進出計画後、二度ほどその地区での開発の希望が出ていましたが、いずれも断ち切れの状態です。

しかし、今後その地区への大型開発が進むことが予測されますので、その時に併せて官と民が一体となった形で道路改良を行っていきたく考えています。



稲永 信英 議員

■問 学校の自主性・自立性を高め、学校が地域住民の信頼にこたえるため学校評議員制度の充実を図るとともに、学校の評価システムの確立、経営責任の明確化。家庭や地域に対する説明責任に努めると教育施策要綱にあるが次のことを尋ねたい。

① 評議員制度について
② 教職員による自己評価について
③ 保護者・地域住民による外部評価の内容と結果の公表について
④ 全国（県単独）一斉学力テストの実施結果の公表について
⑤ 今後の課題と改善策について

■答 東教育長
① 学校評議員は、一人一人がそれぞれ校長の求めに応じて学校運営に意見を述べますが、必要によっては学校長は評議員全員を一堂に集め、学校経営方針の説明をしたり、学校運営についての意見や要望などを求めたりする合同評議員会を開くこともあります。

各学校では年に二、三回程度合同評議員会が開催されており、その内容・結果等については保護者また教育委員会の方に報告があつています。

② 教職員の自己評価については、十七年度から試行的に導入されており十九年度から本格実施となりました。

理職による業績評価とが相乗効果を生み、教職員の資質向上が図られ、信頼される学校運営がなされることを期待しています。

③ 保護者・地域住民による外部評価の内容と結果の公表については、制度としての実施ではなく、文部科学省が示す学校評価ガイドラインを踏まえ、それぞれの学校に合った独自の方法で実施していただいています。

各学校の独自性を尊重しながら、学校が改善の努力と説明責任を果たすよう助言していきます。

④ 学力学習状況調査の結果の公表については、粕屋地区内では各学校が全国および県の平均正答率より上に位置しているか下

に位置しているか、また具体的に各教科のどの分野が達成されて、どの分野が達成されていないのか、その部分を示す程度にとどめておこうということと統一しています。

⑤ 課題と改善点として、評議員の貴重な意見・要望を学校運営に十分反映させていくためには、施設整備など予算の問題がありますので、町当局と相談しながら一層効果的に進められるよう努めていきたいと考えています。

また、学校の使命は学力をつけることであると同時に、他の人たちとの共生・共同生活・人間関係を深める、そういう豊かな心を育てていかなければならないと校長会にお願いしたところです。

地域に開かれた学校づくり

豊かな心を育てていく

知りたいこと

望むこと



原野 敏彦 議員

商業核の形成は

合併の動き次第

■問
二年前に都市計画マスタープランに基づく中央地域の状況はということと質問をしましたが、マスタープランは二〇〇四年が基準で二〇二三年の二十年後と定めてあります。もし合併が成立したとき、この基準は変わるのか。

また、ハイパーマーケットが整地されましたがその都市計画の中、商業地域と指定してハイパーマーケット跡地を考えていると答弁がありました。行政に何か報告があったか状況をお尋ねします。

駅前開発についても、都市計画に基づき駅前広場ということで須恵中央駅前を考えているのか。

■答 中嶋町長
とですが、ハイパーマーケット跡地の状態が変わって検討されるのか。

都市計画マスタープランについては、合併の動き次第ですが、合併せずに須恵町単独でいくということになれば現在のハイパーマーケット跡地が商業施設というとならえ方ですし、合併するという事になると新たな都市計画プランを策定することになると思います。

ハイパーマーケット跡地については、国土法による届出が業者からなされていますが、商業施設をつくりたいという大まかな届け出の段階で、平成十九年十二月いっぱいまで春に開業したいということとです。

建物は二階建てで、生鮮食料品等の販売等もあるのではなからうかとは思っています。正式な申請書が出た段階では、

そういう要望等もしていきたいと考えています。

駅前広場の件については一番の問題は財政であり、調査依頼したところ用地買収を含め八億円程度かかるということとです。

周辺の土地を駅前広場として指定するということになると、構造物等の制限等が非常に厳しくなり筑紫野く古賀線をくぐるためのカルバートが側道にあるし、高低差三メートル以上の低い土地であることで、一階部分をとどのようにするかなどの問題も絡んでくるため、現在コンサルタントに調査依頼している状況です。

その結果次第では、駅前広場としての計画を断念するのか、あるいは継続的にいくのか、いずれにしても土地の所有者に大変迷惑をかけている状況ですので、速やかな結論を出さなければならぬ現状です。



役場屋上から見た「ハイパーマーケット跡地」



今村 桂子 議員

■問
少子高齢化となり合計特殊出生率（一人の女性が産む子供の数）は、一九七一年の二・一六人に対し二〇〇六年には四割減の一・三二人となり、対策が求められています。

しかし、妊婦健診は医療保険が適用されないため一人の出産までに約十二万円の費用がかかることから、若い世代にとっては大きな負担となっています。

厚生労働省の指導では、初診については一万円、再診（四回）については六千円の、計五回の助成金を支給するようにとなっています。妊娠中の家庭の経済的負担を軽減できるように妊婦健診の無料健診回数をさらに拡充して



町で実施している「妊婦教室」の様子

助成するよう求めるものです。

■答 中嶋町長
同じ考えであり、市町長協議会でもそのような方向で進めていこうと話し合いを持っているところとです。

現在は二回の助成を行っているのですが、少子化は国の存亡にかかる大事な問題であり、本来は国が行うべき事業であろうと思っています。

国は妊婦健診について十四回程度受診、その内の五回分程助成するのが

妊婦健診助成の拡充

2回の助成を5回に

望ましいと言っています。国からは何の補償もないのが実情です。

しかし、先取りした形でやっていった方がよいのではという気持ちを持っています。

次の市町長協議会で最終的に決定すると思いますが、五回の三万四千円の助成をしていきたいと思っています。

ちなみに、対象者が三百名程度おられますので予算的には六百五十万円程度増えるかとは思いますが、「一年の計は稲を植えよ、五年の計は木を植えよ、百年の計は人を育てよ」という言葉があるように、今、少子化に取り組まなければ日本の将来・須恵町の将来もないと考え、先取りした形での結論にもつていきたいと思っています。

道路改良
1,000万円

◇須恵〜井尻線 舗装改良工事
本路線については、昨年から継続事業であり、前回の改良工事から十年以上経過しているため舗装状態が悪く、走行性と安全性を確保するために傷みの激しい須恵高校入口からめぐみ保育園前までを改良整備するものです。

なお、新生交差点およびスマートインター上り入口については改良施工済みです。

工事長は、三九五メートル、切削オーバーレイ工二、五一〇平方メートル、区画線一、五一七メートル、事業費一千万円、財源は一般財源一千万円となっています。

(全員賛成で可決)



舗装改良される須恵〜井尻線

須恵中央駅
駐輪場屋根設置

須恵中央駅は、平成元年に開設され須恵町の中心部にもっとも近い鉄道駅であり、通勤・通学の手段として重要な役割を果たしています。

駅の自転車置き場には、利用者が自転車を固定するためのラックが設置されていますが、屋根がないため雨天の時は鍵の取

り付け・取り外しの際に、雨に濡れて困っておられます。

今回の工事では、そのような不便を解消するため、自転車置き場のほぼ全面(二一〇平方メートル)に屋根を設置します。工事請負費として、四百九十六万二千円を予定しています。

(全員賛成で可決)



屋根が設置される須恵中央駅「駐輪場」

教室増設

第二小学校では、五百五十六名の生徒が二十教室を使用して学んでいます。

現在、各学年一クラスの編成は四十人以内です。三月に卒業予定の六年生は八十二名で三教室を利用していますが、四月の入学予定者(平成二十年度新入生)は百二十名となるため、四教室が必要となります。

第二小学校には空き教室がないため、四百五十万円かけて教室の増設工事を行うこととなりました。

廊下が続く多目的スペースを壁で区切り教室をつくります。教室の広さは六四・八平方メートルとなります。壁をつくり強化ガラスをはめ込んだサッシと入口の扉を取り付け、床のフローリングを磨くなどの整備を行います。また、備品として黒板・



教室になる「多目的スペース」

乳幼児医療費助成
五歳未満に拡大

須恵町の乳幼児医療費の助成制度は、現在、入院は小学校就学前まで、通院は一歳拡大し四歳未満までとなっています。

また、十年一月の条例改正により乳幼児の三歳未満の自己負担とされていた初診料および往診料は無料となっています。

全国的に子育て支援策を求める声の中、子ども達の医療費の無料化における助成制度の充実が求められています。

そこで今回、粕屋地区内統一で乳幼児医療費助成拡大の提案がなされました。

須恵町では、少子化対策の一環として育児にかかる経済的負担を少しでも軽減するため、平成二十年四月一日から自己負担とされている通院部分の対象年齢を一歳引き上げ五歳未満に乳幼児医療費の助成が拡大されることになりました。

乳幼児医療一歳拡大により、平成十九年十一月現在の対象者は、国民健康保険が三百十六人、社会保険が一千四百五十三人となります。

四歳から五歳未満は二百七十人で、助成対象額は年間五百五十九千円となります。

(全員賛成で可決)

シリーズ
議会用語

「議案」とは？

議会の議決を求めるため、町長または議員が議長に提出する案件のことで、地方公共団体(須恵町)としての意思の決定を求めるものと、議会の意思を求めるものがあります。

その他の議案	可・否
須恵町後期高齢者医療特別会計条例の制定について	全員賛成
一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	全員賛成
単純な労務に雇用される職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例	全員賛成
工事請負契約の締結について	全員賛成
平成19年度一般会計補正予算(第四回)	全員賛成
平成19年度国民健康保険特別会計補正予算(第二回)	全員賛成
平成19年度老人保健特別会計補正予算(第一回)	全員賛成
平成19年度公共下水道事業特別会計補正予算(第二回)	全員賛成
平成19年度農業集落排水事業特別会計補正予算(第二回)	全員賛成
平成19年度水道事業会計補正予算(第一回)	全員賛成

平成二十年(子年)の節目の年を迎え、本年の目標(抱負)を「改革」とし、行財政・議会意識改革に取り組む決意を致しました。

須恵町十二月定例議会(平成十九年第四回)では、最大の焦点でありました糟屋中南部六町合併協議会設置案が全員賛成で可決しました。

しかし、十二月二十一日に六町同時の一斉採決でしたが粕屋・久山、両町議会での否決に伴い白紙となりました。

残念でなりません、その後関係六町長で再び協議がもたれ継続して六町合併を目指すことが確認されました。

当須恵町議会では、合併調査特別委員会等で慎重に議論を重ねながら、結束力・団結力により全員賛成という意義ある採決に、この三十年・五十

12月議会を終えて



藤石 豊 議長

年先の将来「子、孫の時代」を見据えた議員各位の決断に感謝を申し上げるところです。

よく須恵町には、他町に比べて人口が約二万六千人と少なく、財政力が弱いと言われています。

確かに基金(預金)も、毎年取崩し、数年先には大変な時期が訪れる状況ですが、糟屋六町どころそんなに変わりありません。財政力も大切な要因の

一つだと思いますが、須恵町には若杉山系の大自然と須恵川の清き流れ、そこで育まれてきた歴史と文化、そして人との共生は、先達が創造されてこられた大きな財産だと思っています。

誇りをもって、堂々と議論をしていきたいと思えます。

今後、議会に対するご支援ご指導をお願い申し上げます。

須恵スマートインターアクセス道路促進整備

須恵スマートインターチェンジにおいては、平成十八年十月に本格導入の運びとなり、現在の利用台数は一日平均約三千四百台を超えており、十九年十一月末には四千三百台を記録し、今後のETC普及により更なる交通量の増加が予測されています。

しかしながら、それに伴う周辺の道路整備については十分とはいえず地域住民にご迷惑をおかけしており、その対策を講じなければならぬと考えています。

解決策として、高速道に並列する幹線道路が不可欠だという認識をもっており、都市計画道路の土井宇美線の早期整備を検討しました。

しかし、住宅地等の用地買収などがあり実現するにはかなり厳しい状況であるため、西原地区のトヨタセンター用地から現在の須恵スマートインターチェンジの取付道路を結ぶ、町道須恵井尻線までの約一・一キロメートルの区間を県道として認定していただくよう、また早期の整備について、福岡県へ陳情いたしました。



中嶋 裕史 町長

町長報告

県としましても、早期事業認可になるよう努力したいとのことでした。

現時点では、国政における道路特定財源の暫定税率の適用期限が平成十九年度末までとなっており、期限の延長等の不透明な時期ですが、ぜひとも来年度の事業認可を目指して今後も引き続き陳情していきたいと考えています。

請願

◇新農政改革の見直しに関する請願◇

本年度より実施されている品目横断的経営安定策、農地・水・環境保全向上対策や、現在、検討されている農地政策改革は、今後のわが国の食料農業政策を大きく左右するものです。

さらに、広く一般企業の農業参入を促進する農地政策改革は、認定農業者や集落営農組織が地域の農業を担っていく本来の望ましい姿を無視するものであり、担い手への農地の利用集積と安定した経営がなし崩しになることを危惧しています。

ついでには、厳しい農業情勢の中、今後とも展望ある農業政策の確立に向け、新農業政策の見直しを請願します。

福岡県農政連粕屋支部 支部長 百済新次



田植え作業の様子

福岡県農政協議会粕屋支部支部長 百済新次
紹介議員 貝原雅俊

福岡県農政連粕屋支部 支部長 百済新次
紹介議員 稲永信英 三角良人
(全員賛成で可決)
福岡県知事へ送付しました。

◇悪質商法を助長するクレジットの被害を防止するため、割賦販売法の抜本的改正を求める請願◇

国会及び経済産業省に対し、クレジット契約を利用した悪質商法被害・過剰与信被害を防止するため、割賦販売法を左記のとおり抜本的に改正するよう求める意見書を提出するよう請願します。

記

- 一、過剰与信規制の具体化
- 二、不適正与信防止義務と既払金返還責任
- 三、割賦払い要件と政令指定商品制の廃止
- 四、登録制の導入

福岡県司法書士会 会長 萩林和則
紹介議員 森 勝己 柴田真人
(全員賛成で可決)
政府関係機関に送付しました。

議員表彰

本会議の最終日に議場において、議員表彰の伝達式が行われました。

粕屋地区議長協議会 表彰二十年
◇ 森 勝己 議員

森勝己議員は、町議会副議長として要職に就かれています。

多年にわたり町議会議員として自治振興発展に貢献されたための表彰です。

今後も、経験を生かされて夢のある「まちづくり」「地域づくり」に尽力いただきたいと思います。



表彰を受ける森勝己議員